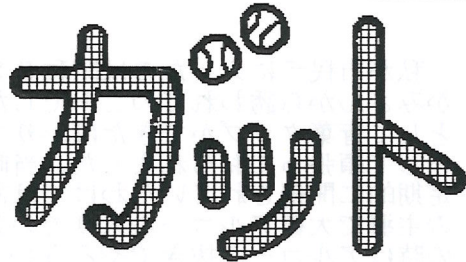


HCTC

since 1973



東村山市民テニスクラブ協議会・機関紙

コート取り当番クラブ

11月	12月分のコート	恩多A
12月	1月分のコート	恩多B
1月	2月分のコート	青葉A

発行責任者・松井貞二

住所 東村山市恩多町

5-49-47

編集責任者・朝倉 守

電話 042-393-7646

第9回運営委員会報告

H10.10.11.・・・スポーツセンター

☆☆ 報告・連絡事項 ☆☆

会長 ・11/1に新入会員のオリエンテーションがあります。よろしくお祈いします。

・11/8の25周年記念式典は朝8時から久米川コートです。早朝なので各クラブで参加を呼びかけて下さい。

連盟 ・10/18, 25は秋季大会のため久米川コートは使えません。(9/15, 25雨天のため振替)

・ナイター使用について市施設係から要請がありました。ナイター終了時間を守り、9:10にはコートから出ること。9:30に駐車場は施錠されるので車を出すこと。守衛さんの宿直が無くなり、9:30までの勤務となったため、以上のことを守って下さい。

使用上問題があれば連盟に意見を下さい。

・11/14 柏崎市と交流試合 連盟から各クラブに参加要請の予定(人数等後日連絡) 18時からBS会館で懇親会

副会長 ・柳杯MD戦は天候により様々な変更が考えられますが、11月8日朝7時までに各会長に連絡します。

セルティスは駐車場が狭いので各クラブ会長は車の台数を調整して下さい。

会計部 ・予算の執行状況は順調です。

ボール代消化率 71% コート代消化率 60%

技術部 ・スクールⅡ期前半終了。7日実施(予定13日)

・若手練習会 毎月第1日曜実施 約15名参加

・9/12, 13 技術部合宿 春日温泉 18名参加

・11/23 中級者スクール

・練習会等に使用したボールは速やかに返却して下さい

広報部 ・25周年記念の原稿ありがとうございました。

事務局 ・10月の七中コート

・10/4 技術部若手、10/11美住、10/18恩多

☆☆ クラブ報告 ☆☆

恩多クラブ ・10/18 13~17時 七中で練習会

萩山クラブ ・11/7 ナイター練習会

青葉クラブ ・11/3 13~15時 セルティスで練習会

諏訪クラブ ・11/1 12~16時 セルティスで練習会

美住クラブ ・特にありません。

** 11月のコート情報 **

久米川コート

曜日	時間	練習日
土曜日	9:00~17:00	7日, 14日, 21日, 28日
日曜日	8:00~17:00	1日, 8日, 15日, 22日, 29日
8日は柳杯MD団体戦です(予備日22日)		
祝祭日	8:00~17:00	3日, 23日

恩多コート(早朝)(土)A, B, Cコート、(日)D, Eコート

土曜日	7:00~9:00	7日, 14日, 21日, 28日
日曜日	7:00~9:00	1日, 8日, 15日, 22日, 29日
祝祭日	7:00~9:00	3日, 23日

恩多コート(ナイター) A, B, Cコート

水曜日	19:00~21:00	4日, 11日, 18日, 25日
-----	-------------	-------------------

東村山高校コート 今月はありません

☆☆ 討 議 ☆☆

・11月の七中コート利用申込み調整

11/1 技術部若手、11/3, 23 美住、11/29 恩多
(他団体と申込が重複したときは、利用できないことがあります。)

・オリエンテーション準備確認

11/1 19:00~20:30 スポーツセンター
運営委員及び各クラブ会計は18:30集合
配布物及び説明内容について

・25周年記念式典及び柳杯MD戦について

雨又はコートコンディションにより変更のときは当日朝7時までにMD実行委員長が各会長に連絡する。

セルティス会場のみ実施可能のときはスポーツセンター第2駐車場(スポーツセンター前、朝日屋隣り) 8時集合、25周年記念式典と柳杯開会式を行った後車に分乗しセルティスに行く。

・ガット11月号(25周年特集号) 50部増刷

・技術部のあり方論議について技術部長より説明

11月の『ラケットショップフジ』による
用具指導は11月8日(日) 久米川コートの予定です

25周年を記念して

東村山市民テニスクラブ協議会会長 松井貞二

市民テ10周年記念誌『10年のあゆみ』の年譜によると、東村山市民テニスクラブ協議会の始まりは1973年(昭和48年)5月3日“東住宅テニスクラブ”として発足しました。当時、故柳前会長宅で6人の方が参加されて創立総会が開かれたとあります。以後、その方々の意思を継いでわれわれの市民テは発展を続けてきました。現在、会員数は325名(休部会員26名を含む)で、機関紙『ガット』は260号を数えます。また各クラブ独自の積極的な活動をみていると、まさに4分の1世紀を経過した重みを感じます。ここに25周年を迎えて市民テのみなさんとともにお祝い申し上げたいと思います。

さて、25周年という大きな節目を迎えて、市民テのこれまでの歩みを私なりに振り返りながら今後の活動のあり方について考えてみたいと思います。

私が入会したのは1977年ですが、そのころ会員数が急激に増えた時期でした。練習コートは恩多公園の3面しかなく、技術部の人の球出しを長蛇の列を組んで待っていたことを記憶しています。当時、元気だった柳会長は、練習中はいつもコートにいて全体を見回していました。コートに入るときや球出しを受けるときはきちんと挨拶するようにとか、コートの上まわりで落ちているボールを自分で拾って歩き、コート内に転がっているボールがあると危険だからといって誰彼なく拾うように注意していたことを懐かしく思い出します。市民テの運営はもちろんのこと、会員一人一人の生活ぶりにまで気を配る柳さんに私は大きな影響を受けました。気がついたらいつの間にか自分も市民テの活動に夢中になっていました。市民テの活動は当初から組織もしっかりしており民主的な話し合いのもとに活動を進めておりましたが、やはり柳さんを中心に動いていたように思います。

この20年間をあらためて振り返ってみると、始めの10年ぐらいは、練習でも合宿でもまだ全体で出来る時代でしたので、会員全体の人間的なふれあいも深かったような気がします。その後、会員数はますます増えて一時は400名を超えるとときもあり、コート面数の不足、各クラブ員数のアンバランス、技術部員の確保と負担の増大など様々問題も起きてきたわけです。また大所帯になったことで会員相互の意志疎通が徐々に希薄になっていったように思います。このような問題に対してわれわれは運営委員会を中心にその都度みんなの知恵を出し合い乗り越えて来ました。最近では、各クラブ独自の合宿・練習会などが活発に行われ、若手育成の練習会なども実施されています。また組織面では役員人事の輪番制を確立し、運営面では各クラブ運営費を確保するなど、各クラブ単位としての集団の力を育成し一定の成果をあげてきたように思います。さらに東村山高校コートや七中のコート及び民間のコートも借りていままでも以上の活動ができるようになりました。

しかし、組織が整備され各クラブの活動が軌道に乗ることで、反面、協議会としての全体の結束力が薄れ、物事がすべて形式的に流される傾向になりつつあります。ひとりひとりがみんなのために協力し合う市民テの精神やかつての情熱が失われ、お互いを思いやる温かい人間的なふれあいが少なくなってきたような気がします。久米川コートにおける市民テとしてのモラルも欠けてきているように感じます。今後、ますます多様な目的で入ってくる会員が増えればお互いの意志疎通が希薄になり、市民テの運営はますます難しくなっていくように思います。

これからの市民テはどうあるべきかについて考えるとき、われわれは初心に返るべきではないでしょうか。かつて先輩たちが苦勞してコートを確保し、その限られたコートの中でお互いが思いやり、みんながボランティア精神をもってコート整備をした時代を思い起こして欲しいと思います。市民テの基本理念はボランティア精神で成り立っていることを忘れないでください。われわれの市民テはテニスをしたい、テニスを楽しみたいという自らの要求を実現するためにみんなで協力し合っているというクラブなのです。

最近、次代を担う多くの若者が市民テに加入し新鮮な風を吹き込んでくれています。またテニス技術の非常に高い人が何人か加入し、自主的に各クラブ練習の指導に当たってくれていることはとてもうれしく思います。高齢化社会を迎えつつある今日、テニスは老若男女誰でも出来る生涯スポーツであり、『ライフスポーツ』『ファミリースポーツ』としても最適です。

われわれの市民テが満25年を迎えて、いま大きな転期に差し掛かかっているように思います。テニスを通して身体づくり・人づくり・街づくりを目指してきたわれわれみんなの東村山市民テニスクラブ協議会の更なる発展のため、会員ひとりひとりが会則前文に示された市民テの精神を是非もう一度再認識して欲しいと思います。

創立25周年記念にあたり市民テのますますの発展と会員のみなさんの健康をお祈りしてお祝いの言葉といたします。

青葉クラブと共に

青葉クラブ 藤岡信照

私が市民テに入ったのは昭和53年、半年程前に入っていたかみさんから誘われてのことでした。そのころ4番目のクラブとして青葉クラブができたばかりで故米田さんが初代青葉会長として頑張っておられました。当時の運営委員会は今のよう定期的に開催されていたわけではありませんでした。故柳会長の主導で大概アルコール入りでの会議でした。何回か「会議の時はアルコール抜きでやろう」と言ったことを覚えています。青葉クラブはできたばかりと言うこともあり、テニスの腕は大したことがなく、会長の米田さんと高瀬さんの両壮年が頑張っておられる程度でした。米田さんの後引き継いで何年かクラブ会長をやらせて頂きました。団体戦では昔の美住クラブがそうだったように(失礼)優勝にからむこともなくのんびりしたものでした。終わった後のビールを楽しみに参加しました。何年かやるうちに女子は必ず優勝にからみ、男子でも優勝したこともあり、「青葉強し」と恐れられるようになったきっかけが何処にあったのかまだわかりません。

最近では市民テ二人目の女性会長の下で頑張っていると思いますが、いまいち細かいことでじっくりいっていないような気がします。クラブの運営がうまくゆくかどうかは「弱いもの」「声を出さない人」「引込み思案な人」に十分な目が届いた運営をすることだと思います。今は遠くに離れていますが心は青葉クラブです。一緒に楽しくやりましょう。

東村山市民テニスクラブ25周年に寄せて

青葉クラブ 江原由高

25年前、わずか6人でスタートされたこのテニスの集いが、延々と4半世紀続いて来たことの意義、しかも尚、順調に推移して来ている意義、ご同慶の至りです。

昨今、日本のテニス人口は大幅減(’93年約1300万人から’97年1000万人)と聞いておりますが、東村山市民テニスクラブは、その役回りをより多くの人々が持ち回り、作業分担が整い、その時々を精一杯頑張っておられた為の現在であろうと思います。

私と女房がこのクラブに参加して18年目になりますが、子供達も次々に入会し、大人数でお世話になった時期もありました。今では義理の息子も交えて、たまには家族大会も出来ております。これは、このクラブに参加出来る、健康を保て、親子のコミュニケーションも計れた事によるものと、感謝で一杯です。

今は、東村山市民テニス連盟のお手伝いをさせて頂いておりますが、連盟加盟団体が8団体、総勢700人位ですが、この約半数がこのテニスクラブです。従って、春、秋の大会、その他各種催し物をするに際しては、このクラブを抜きには考えられません。

同時に敢えて苦言を呈するならば、スポーツ宣言都市を宣している市にしてはコート面の数が少ない事です。今まで幾度となく、多くの人が働きかけをして来られておりますが実現しておりません。

9月23日がテニスの日と決められまして、松岡、伊達両氏がテニス愛好者の減少傾向に歯止めをかけようと、全国で各種イベントを開催されております。これにあやかり又、25周年記念を新たな機会として、益々の発展を遂げるよう微力ながらお手伝いをして行きたいと思っております。

仲間がいればこそ

青葉クラブ 浜 敬子

市民テに入った頃は、誘ってくれる仲間ができたことも嬉しく、また仲間が増えることも楽しくて、よく飲み会に出掛けたものでした。(勿論いまでもそうです) のどを潤しながらのテニス談義はストレス解消と少々こじつけながら。

こんな私でしたが、加入六年目にして図らずもクラブ運営に関わり、自分なりに取り組んで二年目。やっとなり解任されますが、いろいろと勉強させていただきました。

これからもテニス仲間と共に、明るい老後を目指して、大いに楽しみたいと思っております。

市民テニス協議会25周年を迎えて

諏訪クラブ 江下 洋

25周年、記念に、何か、書いてくれと話をもらったとき、何故か、可愛い、女の子が、歌っていた、…15, 16, 17, と私の人生、暗かった…こんな歌を思い出しました。

この歌と今度の話とはつながらないと思いますが。

そういえば、私、自身、東住クラブから 青葉、本町、諏訪と転々としたと、という言葉は、あまり、良くないですが…

これは、実は、市民テニス協議会の、発展の、一過程で、あるということに、私は考えました。

市民テニス協議会の、前身である、東住に籍を、おかせて、いただいてから、25年以上は、すぎている、わけです。

ずい分、昔といおうか、たったの、25年、と、いおうか、25年を経ている間に、会員が増え、それに伴って、クラブ名も、増えていった。

いうならば、その増えていった、クラブの常に、新しい、クラブ名に所属させて、もらっていた、ということです。

と、いうことは、市民テニス協議会の、発展の、常に、最先端に、居させて、もらっていた、と、考えるのは、考え過ぎ、でしょうか。

はた、又、思い込みと、言う事に、なりますでしょうか。

この辺は、皆様の判断に、おまかせ、いたします。

何は、ともあれ、ここ、数年、コートに、顔を出さない、何かの折りにのみ、年、1~2回、かな、2~3回、かな。

それでも、気持ち良く、声をかけて、もらって、います。これも、市民テニス協議会の、良いところだと、思っています。

市民テニス協議会の、良いところは、まだ、まだ、ありますが。そして、それらが、市民テニス協議会のさらなる、発展を、さそうことでしょう。

25年の間には、色々な事が、ありましたが、いざ、書くという事になりますと、なかなか、でてこないものです。

そして又、25周年を、待たずして、他所の国に、行かれた、方もいらっしゃると思いますが、その方々も、25周年を、祝い、さらなる市民テニス協議会の、発展を、念じて、下さっていると、信じています。

まずは、25周年、お目出度う御座います。

25周年 私のテニス

恩多クラブ 新沼美智代

1989年1月、主人と共に市民テに入会し、25周年の今年10年目という節目を迎えました。

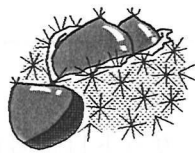
テニスを始めて1年、週1回のスクール通いに物足りなさを感じつつも、思うように身動きがとれない中、土日の自由な時間帯に練習やゲームができるクラブがあるなんて夢のようでした。

その年は恩多コートでのスタートで、乱打の順番待ちをしていた私に声をかけて下さった方がいました。「あ・あ・あんだ新しい人かね」、「ハイ」、「ぼ・ぼくは足を痛めているから走れるかどうかかわからんけど・・・」、「よろしくお願ひします」というようなやりとりがあったと思いますが、相当に出来る人という印象でしたから大変緊張したことを覚えています。案の定、コースの定まらない私のストロークに一步も動かず、数分で他の方と交代されたのです。そんな事が、もしかしたらテニスへの執着のきっかけになったのかもしれない。

とにかく、散々なスタートでしたが、その柳会長も遠い所へ旅立たれ、あらためて月日の流れを感じております。

この10年、大勢の方々と交流ができ、テニスの面白さ、難しさは無論、多くのことを得ることができました。

これからも、入会当時のコートに立った時のワクワクした楽しいテニスを続けて行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



市民テ25年の過去:未来

美住クラブ 河野 好明

京都のホテルの一室726号、ベッティン直前、市民テ25周年の原稿依頼を思い出してしまった。多少時間もあるので書いてみよう、と、ウイスキーグラスを片手にペンを取った。

市民テ25周年の歩みというか、思い出というか、歴史かな、と思った時、一瞬、中学一年初めての社会、歴史の時間が浮かんだ。

45年昔の一コマである。社会、歴史の先生曰く『今日は勉強はしません、でも社会、歴史をなぜ勉強するのか、君たちは解りますか』ということで中学初めての授業が始まった。更に先生曰く『なぜ社会、歴史を勉強するのか、思ったことを言って下さい』中学生になったばかりの幼い僕たちは『昔を知るため、歴史を知るため、試験、クイズのため、物知りになるため、等々……、』好き勝ってな意見を出した。そこで先生曰く『君たちの意見は全部間違っています。でも、このことは覚えていて欲しい。いいですか、社会、歴史を知ること、これからの将来を予測したり計画するために必要です』皆んな、ボケとして聞いていました。そこで先生また、曰く『将来を予測、計画するということはどんなことですか』

教室全体がシーンとなり、誰も一言もしゃべらず数分がすぎた。

先生は『このことは非常に難しく先生もよく解りません。だからこれから1年間先生と一緒に勉強していきます』

このシーンを思い出しながら市民テ25年の間には何があったんだろうか、と振り返って見ると、たいした変化もなくごく自然の流れがくり返されて来たように思う。確かに貴重な方々が世を去り、又クラブを去って行った。しかし、その方々以上に響きをもった人々が集まって来た。これ又自然の流れだろう。当初数人で出発し、数十人となり、今では数百人の市民テとなっている。その間、会則、(個人的には、会則、規則などは苦手だが)も出来、運営委員会も活用され一応軌道に乗って来ている。そんな若い歴史の過去から、これから25年先の市民テはどうなっているだろうかと、思いが急ぎょ先に進んで行ってしまうのである。(多少先生の教えに反するけど)25年先、仲間達はどうなっているだろうか、自分はコートの上に立っているだろうか、久米川コートは存続するだろうか、等々…、暗いことばかりが浮かんでくる、書くのがいやになって来た。何か楽しいことはないだろうか、ホテルの窓を開けて、京都の夜影を見ていると整然とした光の列が飛び込んで来た。その時 ア!、そうだ、25年先、もし東村山浄水場の上に25面のオムニコートしかも冷暖房のコートが完成したらどうなるだろう… と、思うだけで楽しくなって来た。

春には風にゆられて落ちてくる淡いピンクの桜の花びらを背に乗せて、オムニコートの上で仲間達がボールを追いかけけている。夏になると、コート表面から数秒、数センチメートルのかげろうのような冷風が立ちのぼって、猛暑の年なのに涼しそうに仲間達ボールを追いかけている。美味しいビールを飲みたい人は冷風の一部のバルブを閉じれば猛暑の中でボールを追いかけることも出来る。夜になる 花柄や千鳥や縞模様のゆかたを着て腰にはうちわを差し、下駄をつっかけ、空堀川の辺に集まってくる。川べりには黄色い、青味がかかった光を点滅しながら飛び交うホテルの群れ、仲間達は夏の夜長をいつまでも いつまでも楽しむ。しばらくすると 9月、10月のテニスシーズンがやって来た。25面のオムニコートでは全日本アマチュア選手権が始まり、仲間の子供や、孫たちがファイナルまで勝ち進み、ついに表彰台に立ち両手を高々と上げている、市民テ50年の快挙の姿。皆が会場から去って行く頃には周りの桜の葉が味わい深い紅葉を作りながら一枚、一枚と静かに去って行く。

もうすぐ寒い、寒い冬がやって来る。この年は特に雪の多い年で、東村山全体が銀世界。しかしオムニコートだけは、鮮やかなグリーンを放ち、仲間達が元気にボールを追いかけている。明日は市民テ50周年の忘年会、暖房のスイッチを切って、雪の降り積もるのを待つ。12月23日の夕方からチラチラと降り始め、深夜にかけて大雪となった、24日の朝は東村山全体が銀世界となり、25面のオムニコートも目が痛くなる程の純白で覆われている。忘年会に集まって来た仲間達は、皆んなスキーの板をつけてコートの上に飛び出して行った。純白のキャンパスの上に12色のカラスプレーで思い思いの絵を大きく描き、熱燗で一斉に乾杯をする。

熱燗を飲みながら市民テ更に50年先(100周年)を思うと、太田杯、柳杯等が無重力空間ステーションの中で競われているかもしれない。

そんな空想を25年先に僕は書きたい。

窓の外を見ると京都の夜の光も静まり、降り始めた雨の中に、時おり車のライトがスーッと消えて行く真夜中になっていた。

創立25周年に想う

菽山クラブ 早川洋一

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。」鴨長明の「方丈記」の一節である。

「市民テ」創成期とほぼ同じ頃が、わたしのテニスの創成期でもある。以来四半世紀、わたしのテニスは、「市民テ」の流れの中にあっても本流ではなく、岸辺のよどみに浮かぶうたかた(泡)のように、目だたずにいまにも消えそうでいながら、なお消えずに今日に至っている。

この間、仲間とはいえないが元「デ杯選手・監督」で、日本テニス界の大御所として活躍された太田先生をはじめとして、囲碁もお強くて野武士のような風格で、かつ、やさしかった阿辺川さん。アマチュア合唱団でも活躍され、ソフトなテノールの浦川さん。ゴルフもシングルの腕前、パワーテニスの上釜さん。「市民テ」の生みの親であり育ての親でもあり、こよなく酒を愛した柳さん。そしてとくにジュニア教育に熱心で、常ににこにこ顔だった中根さん。みなつぎつぎと逝ってしまった。

また、多くの思い出がおおい懐かしい仲間たちも去ったが、現在も残って活躍されている人もまた多い。それぞれがテニスの技術も人間的にも素晴らしい個性の持ち主ばかりであり、テニス以外にも教えられることが多かった。テニスを離れての付き合いもまた楽しかったし、現在も続いている。それが、いまだに「市民テ」を離れられない理由でもある。

いまでは「市民テ」歴史の生き証人のような存在になったが、12年ほど前に埼玉県志木市に転居して以来疎遠になってしまい、運営のお手伝いをするでもなく、名前ばかりの会員であり、歴史を語るにははなはだ相応しくないように思う。

しかし、「市民テ」も確実に代替わりしている。かつてジュニア教室で、小さな身体でラケットに振り廻されるようにボールを打っていた二世たちが、今では主流になりつつある。頼もしい限りであり、またおのれの歳を感じる時でもある。

生来不器用なわたしのテニスは、諸先輩の指導の甲斐もなく、ボールをラケットの芯に捕らえる時期が来ないままに終わろうとしている。もはや上手くなるのは無理で、徒労かもしれないが、これ以上下手にならないようにと、健康のためにラケットを振り回している昨今である。

歴代の所属クラブの会長や幹事の皆さんには、いろいろお気遣いいただきほんとうにありがたく思い、合宿や練習会には、できるだけ参加させていただくようにしている。幸い、テニス環境には恵まれ、ほぼ毎週あちこちで汗と、冷や汗をかいている。

「市民テ」はわが心の故郷。これからも30年、50年と流れが絶えることのないよう祈るものである。「よどみに浮かぶうたかた」のほうは、いずれ消えるまで、よろしくお付き合い願いたい。

井戸端会議所

恩多クラブ 川路俊一

市民庭25周年記念を迎えるに当たって、何を書けばよいかを考えたところ、たまたま社会人になって丁度25年がたち先日会社から25周年表彰を受けたことを思い出した。私は、市民庭に入れてもらって10年であるが、生活の中で、どの様な経緯関係であるかと言えば、最初の社会人生活15年は、仕事、仕事で週末(土曜日)は、いつも午前様、その後市民庭に入ってから、テニスにはまった感がある。現在は、この社会的現象もあり、会社人間に戻りつつある。現役が続く限り両立が出来る様頑張るつもりである。本題に戻ると、私が入会して10年、何が変わってきたかと考えると、非常に会員の平均年齢が若くなった事で、今後の市民庭の活性化が想像出来る。又市民庭を個人的に実生活に置き換えて見るとスーパーゼネコンとは言えないが、中堅ゼネコン程度の組織力を秘めていると思われる。この事から古い殻を破り新しい規格。アイデアを出し合い実施していく事が、たとえば、入会年度別(同期)名簿、在籍年数等の整理を実施し、毎年15、20、25周年の対象者を記念表彰、ガット掲載。又会員の月別誕生日会の実施など決して出来ない事とは思えない。更に親睦を深める一手段と考える。最後に学生時代、会社生活を通じての友人以外に、市民庭の中でも今後歳を重ねていっても、どこか温泉に行きテニスをし酒を飲み交わす仲間が出来た事を思えば、市民庭とは、良い意味での井戸端会議所と思える。今後30周年の時は、どの様に変わっているか楽しみである。

祝 25 周年！！

恩多クラブ(休部会員) 青木 昭

その頃 私は東久留米市のとある井戸の中で 殿様蛙の一匹として、日曜日毎に肩で波切る存在であったと記憶している。その2年位前迄は 同じ井戸の中で軟庭(現在はソフトテニスとか言う由)の世界で同じ様な事をしていたのだから、外から見れば別段どうって事ないのかも知れないが、変わった当初は本人に取っては実にいろいろな意味で大変な事であった。勿論、その為には多くの先輩方の教えを乞い、また能たう限りの本を読んで、テニスとはなんぞやと改めて熟考しながら練習したものである。当時の一冊、学研の「テニス技術百科」で覚えた名前が誰だろう、故 太田芳郎先生その人であった。

ウエスタングリップの名手!

個性を重視する思想!

諸般の情勢を見通す確かな眼! 等々。

将に全てが私の目標そのものではないか;と思ったものである。ともあれ、偽り無しのオジンになってからの転向であり、且つまたゼロからの出発はしたくないと言う、至って我が侘な発想の故に、思った以上の抵抗を受ける事になったのは当然で、それは今でも時折感じている。

曰く、ナニ? ウエスタングリップ? それじゃあ君テニスはできないヨ。

曰く、ナニ? 雁行陣が得意? 硬式ではそんな話にならんヨ。

曰く、ナニ? 蠅叩きサーブ? それではスピードのあるサーブは打てないヨ。

まだまだある。書き続ければキリがないが、その後続く言葉はたった一つ、イースタングリップに変えなさいヨ! ホント 一体、誰がウエスタングリップは軟庭だけだと決めてしまったのだろう軟庭クズレと冷やかされたり、半ば軽蔑の眼差しで見られながら遠慮しいしいゲームに入れてもらっていたことを思い出す。でも一番応えたのは 順番がきて、私とプレーする段になると判ると、サッサと帰ってしまう人も居たことで、団地族の親睦を主眼として運営していた私にとって、これには随分気を揉みました。

ところで ガットNo.100号の年、私は定年を迎え 故郷は九州に帰る事となり、井戸の蛙が大海に泳ぎ出す運びになりました北九州市では四つのクラブにまたがってプレーを楽しんだが、東京から(帰って)来たと言うだけの事で、大事にしてもらえたことは一寸だけ面映いことでした。

そして88年、子供の就学で再び東京に出てきた私は、未だ晩秋の香り抜け切れぬ12月第一週、市民テの門を叩いたのである。何と、そこには崇拜する心の恩師、太田先生がいらっしゃるではないか! 今にして思えば、市民テと私は、きっと赤い糸で結ばれて居たに違いない。そして翌89年1月14日から一員としてプレーを始め、この祝典に一筆啓上できる栄誉を与えられたのである。その日、故柳会長直々の腕試しを受け、「ウン、お前強いナ」とほめて下さった声をどんなに嬉しく思ったことか。

これらの感激を胸に秘めて、3年間お世話になったあげく 口書を撒き散らしたうえに何のご恩返しもしないまま、今は神奈川県は相模湖の裏山で、仙人になる修行をはじめている。なんとも心苦しい限りではあるが、未だに市民テを退部できずに居るのも、あの感激を失いたくない心境と、素晴らしい市民テよとの思いからに他ならない。

年毎に新しい名簿の届くたび、コートでお世話になった方々の名前を一つ一つ拾っては面影を暖めているのだが ポツリポツリと確実に去って行かれた方々が市民テの発展のために、如何に苦勞を重ねられたかを思い、また、皆様全員が役員の方々を助けて一丸となって活躍されていることを思って、改めて25年の歩みの荘厳さを噛み締めている次第です。

体とラケットはシーラカンスでも、腕とセンスは常に現代的でありたいと願いつつ、皆様のご健勝を祈ります。

市民テ 万歳! 1998年10月 頑張爺

(絶対にGと発音してはいけない! Ya と読むこと)

編集後記

ガット11月号は 市民テ 25周年特集号としました。

原稿をお寄せ頂いた方々に感謝いたします。

みんなで力をあわせ、30年、50年とさらに発展させましょう。